

5/14(木)

バーレッシン 技術編

バーレッシンがいかに大切、重要であるかをお伝えしています。ただ単に身体を温めたり、動きやすくするためのものではない事がお分かりいただけていますでしょうか。

プロの舞台を観ていても、バーレッシンが甘いダンサー、そうでないダンサーはすぐに分かってしまいます。せっかく舞台を観に行ってもこのように粗探し(?)をするのはあまり良い事ではありませんが、パッションは素晴らしい…だかしかし…なにか気持ちばかりが先行して技術が追い付いていないと感じると、感動が頭打ちになりがちです。もちろんその逆も同じです。「バー美人」とか「稽古場美人」などと言う言葉もよく耳にします(笑)。これはバーレッシンが踊りに繋がっていない人の事を言っているのでしょう。舞台上上がる人間は特に、いつもいつもあらゆる角度から自分を見つめて感じる作業をしている必要があります。

技術が追い付いていなくて残念だと感じる一番の特徴はやはりバレエ三種の神器のひきあげ、ターンアウト、つま先ですが、この3つはそれぞれが出来ているかどうかというより、この3つの調和が舞台上では「品」となって現れます。これらが身につけていないと、踊りが大きく見えない(身体がのびのびと大きく見えない)、バタバタと足音がうるさい、脚と脚のクロスが甘いため下品に見える…といったことが感じられます。

世界最高峰と言われるパリオペラ座の芸術監督のインタビュー。「パリオペラ座の踊りはつま先の妙技。つま先で表現する事が重んじられているため、上半身などを使った過度な表現はパリオペラ座には必要ない」との内容に「んゝ〜」と思わず納得。そうそう彼らの足の甲にはおまんじゅうが1個入っているんですね、と言うくらいのもの(笑)。もちろん、各国の流派の違いなのでどれが正しいと言うものではなく、自分がどういった教育を受けてきたかが大きく影響していると思います。有梨先生は英国ロイヤルバレエの筋の教育を受けました。小学生〜ご縁がある先生はすべて英国ロイヤルバレエへ留学されていた先生をはじめ、いわゆるロイヤル流の先生方に師事しました。パリオペラ座スタイル、ロシア流にご縁は有りませんでしたので、一歩外へ出て間近でロシアスタイルのバレエを観た時にはかなりびっくりしました。小さい頃に教わったことが全てだと思っていた石頭を完全に殴られたような気持ちになったのを今でも覚えています。

「ロイヤルアカデミーオブダンシング」(RAD)というバレエ教育法を日本で最初に取り入れたと言われる先生に教えて頂き試験も受験しました。当時からバレエコンクールは盛んですが、対してRADメソッドはしっかりとした教育法で、年齢にあった事をきちんと習得し試験を受け徐々にグレードアップしていくという検定です。当時の日本のバレエ界にとっては画期的でした。各グレードの、足の高さ、顔の向きの角度、回転(ピルエット)の回数、がきちんと教科書で定められており、どれだけ正しく課題が習得できているかというものなのでとても教育的です。この教育法は、世界中のバレエ教育レベルの標準化が目的で生まれたものだと言われていますが、有梨先生が今になって感じる事は、この教育的なメソッドの目指すものは「品」でもあると思います。定められた事にとことん従う事は「品格」に繋がります。前に「型」についてお伝えしましたが同じお話になります。「基礎」=「品格」。人間誰にでも必要な事だと思いますが、やはり舞台上上がる人こそ「品格」は重要です。その人に備わる品格を感じた時、納得、共感、感動が生まれるのだと思います。

バーの技術に戻ります。いつも有梨先生はどうしても踊る人が気品に満ち溢れる人であって欲しいと願いながら舞台鑑賞に出かけます。ジャンル、演目を問わずこれは絶対条件になります。職業柄になってしまいますが実際にはやはり、脚の動きがクロスされている事が意識されます。バーレッシンで「5番にクロス!!」とか「脚を最後まで閉じなさい!!」などと言います。

バレエダンサー西田佑子さんがおっしゃっていました→「最近のダンサーの踊りは語尾が無い!!おはようございま...〇〇で...みたいに踊りに起承転結の結がないのよっ!! それは普段のお稽古や、お稽古以外での所作がそのまま踊りに表れているのよねっ!!」と熱弁されていてなんと素晴らしい事かと感心しました。日常生活が踊りに出るといってお話をすると、時間がいくらあっても足りない(笑)、バーレッシンについてお話をすると...何かの動きの後、あるべきポジション(主に5番ポジション)にきちんと脚を納めるという事は「品」に繋がる事として大変重要な事です。おもちゃで遊んだらきちんと片付ける、何かを使ったら次の人の事を考えて元通りにする、などと同じでやはり「品」に繋がっているのです。有梨先生も若い時はこれを頭でしが理解していなかったと思います。歳を重ねるうちに、生徒さんたちを見ていて実感できるようになりました。若い皆さんは実感できないとしてもとりあえず「きちんと5番に戻す」は大事にしましょう!!

そう「起き上がり小坊主」の様に(笑)。